

## 令和6年 病害虫防除指導情報 第1号

作物名:小麦  
病害虫名:赤かび病

小麦の生育が大幅に早まっています。赤かび病の適期防除を徹底し、罹病粒混入による落等及びかび毒汚染の防止に努めてください。

### 1 作況試験ほにおける小麦の生育状況（5月9日現在）

黒石市の出穂期は「ネバリゴシ」が5月9日と平年より10日早く、「キタカミコムギ」が5月13日と予想され、平年より8日早まる見込みである。

また、六戸町の「ネバリゴシ」の出穂期は5月8日と平年より11日早かった。

黒石市(農林総合研究所)

品種名	年次	出穂期	開花期
ネバリゴシ	本年	5/ 9	(5/19)
	前年	5/13	5/20
	平年	5/19	5/26
キタカミコムギ	本年	(5/13)	(5/21)
	前年	5/17	5/23
	平年	5/21	5/28

六戸町(野菜研究所)

品種名	年次	出穂期	開花期
ネバリゴシ	本年	5/ 8	(5/17)
	前年	5/10	5/19
	平年	5/19	5/28

注) 平年は、黒石市が過去18か年、六戸町が過去15か年（平成24年産を除く）の平均値。

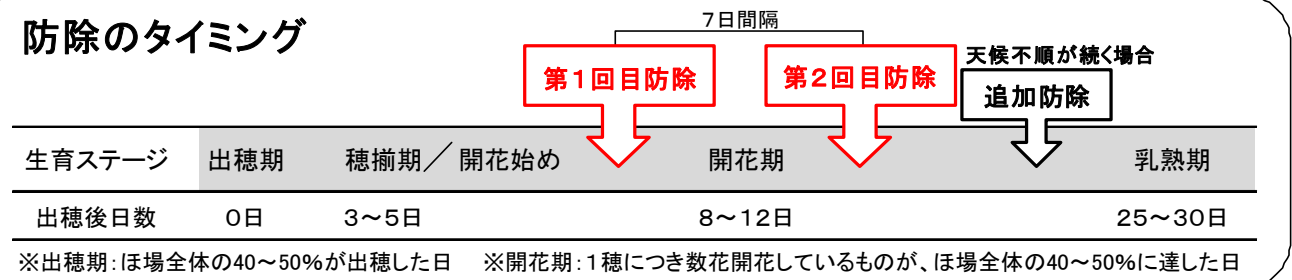
( ) 内は5月9日現在での見込み。

### 2 防除対策

赤かび病菌は開花から10日程度の間で感染しやすいため、開花始め～開花期に第1回目の防除を、その7日後に第2回目の防除を行う（下図参照）。また、最初の発病部から二次伝染するので、2回目の防除後に天候不順が続く場合は、追加防除を実施する。防除薬剤については、県防除指針等を参考にする。

なお、仙台管区气象台が令和6年5月9日に発表した季節予報（5月11日～6月10日）によると、降水量は平年並か多い見込みである。

### 防除のタイミング



### 3 注意事項

- (1) ほ場の土壌水分が高くと、赤かび病が発生しやすくなるので、排水対策に努める。
- (2) チオファネートメチル剤（トップジンM水和剤等[FRAC:1]）は、耐性菌が出やすいので連用しない。
- (3) 紅色雪腐病が発生したほ場ではチオファネートメチル剤は使用しない。
- (4) アミスター20フロアブル[FRAC:11]は、かび毒の産生量を増加させた事例があるので、出穂後は使用しない。
- (5) 収穫にあたっては、事前に赤かび病の発生状況を把握し、本病の多発により罹病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。
- (6) 刈り遅れは、かび毒の産生を助長する原因となることから、適期収穫を確実にを行う。また、収穫した小麦は可能な限り速やかに乾燥する。
- (7) 共同乾燥施設においては、荷受け時に被害粒のチェックを行う。赤かび病の被害粒の混入が確認された場合は、別に乾燥調製を行う。

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬情報」[https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)  
農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>

☆農薬散布時は農薬の飛散防止対策をしてください☆

学校、保育所、病院、公園等の公共施設内の植物、街路樹並びに住宅地に近接する農地（市民農園や家庭菜園を含む。）及び森林等において、農薬の飛散を原因とする住民や子ども等の健康被害が生じないように、飛散防止対策を徹底しましょう。

農薬の散布に当たっては、事前に周辺住民に対して、農薬使用の目的、散布日時、使用農薬の種類及び農薬使用者等の連絡先を幅広く周知するとともに、近辺に化学物質に敏感な人が居住していることを把握している場合には、十分配慮しましょう。

※当情報は、青森県農業・就農情報サイト「農ナビ青森」  
(<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に掲載しています。

《この情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900  
〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6 担当：主幹 菊池晴志